

しきこえ給ふもむかしの御なさせなさをおもひ給にこそはと、ことわりにおぼさる、東三でう  
のにようごはむめつばにすませ給ふ、おほんありさまあいきやうづきけちかくうつくしうお  
はします、略<sup>○中</sup> そのふゆくわんばくどの、ひめぎみうちにならせたてまつり給、よのひと  
ころにおはしませば、いみぢうめでたきうちに、どの、おほんありさまなせもおくふかくこゝ  
ろにく、おはします、むめつばは、おほかたのおほん心ありさまけちかくをかしくおはします  
に、このたびのにようごは、すこし御おぼえのほせやいかにとみえきこゆれど、たいいまの御あ  
りさまにうへもまたがはせ給へば、おろかならずおもひきこえさせ給なるべし、いかにしたる  
ことにか、かゝるほせにむめつばれいならずなやましげにおぼしたれば、ちゝおどいかにい  
かにとおそろしうおもひきこえさせ給へば、たいにもおはしませぬなりけり、よもわづらはし  
ければ、一二月はまのばせ給へど、さりとて、かくれあべきことならねば、三月にてそうさせ給  
に、みかぢいみじううれしうおぼしめさるべし、略<sup>○中</sup> くわんばくどの、いとよの中をむすば、れ  
すゝろはしくおぼさるべし、さばれとありともかゝりとも、わがあらばにようごをばきさきに  
もすゑたてまつりてんど、おぼしめすべし、はかなくて天元三年かのえたつのだしになりぬ、<sup>○中</sup>  
略 六月一日どらのときに、えもいはぬをとこみ、<sup>○一</sup> たひらかにいさゝかなやませ給ふほせ  
もなくうまれさせ給へり、略<sup>○中</sup> 東三でうのみかどのわたりには、としごろだにたはやすく人わ  
たらざりつるに、ゐんのみやたちのみどころ、<sup>○三</sup> 條及爲尊 敦通二親王 おはしませだにおろかならぬとの  
うちを、まいて今上一宮のおはしませば、いとことわりにて、いづれの人もよろづにまゐりさ  
わぐ、<sup>○中</sup> かくてくわんばくどの、にようごさふらはせ給へど、おほんはらみのけなし、おどい  
いみじうくちをしう覺しなげくべし、<sup>○中</sup> みかぢおほきおどいの御こゝろにたがはせ給はじ  
どおぼしめして、このにようごきさきにすゑたてまつらんと、給はすれど、おどいなまつゝま